

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002、2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと好調となりましたが、2005年以降減少傾向を示し、2020年は1,120トンとなりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2020年は1,228トンとなりました。

2. 2022年6～8月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に62トンの水揚げで、前年の259%、平年の112%でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に26トンの水揚げで、前年の86%、平年の36%でした。

3. 2022年10～12月期の見通し

漁獲の主体はカタクチシラスで、来遊量は西薩海域では前年・平年を下回り、志布志湾海域では前年を上回り、平年並と考えられます。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、近年の漁獲パターンから予測しました。

西薩海域は、直近の漁模様より、今期は前年・平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、夏季降水量と秋漁に正の相関が見られ、これをもとに予測すると、今期は前年を上回り、平年並と考えられます。

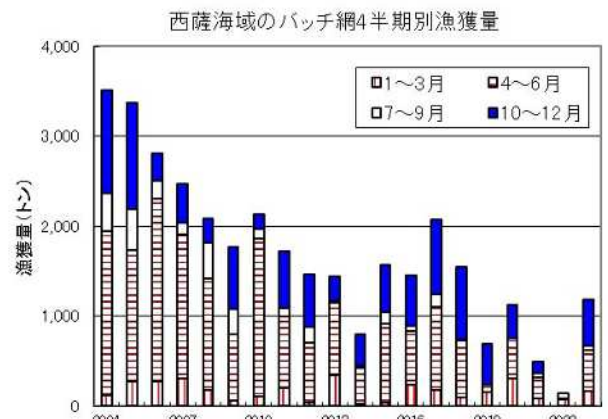
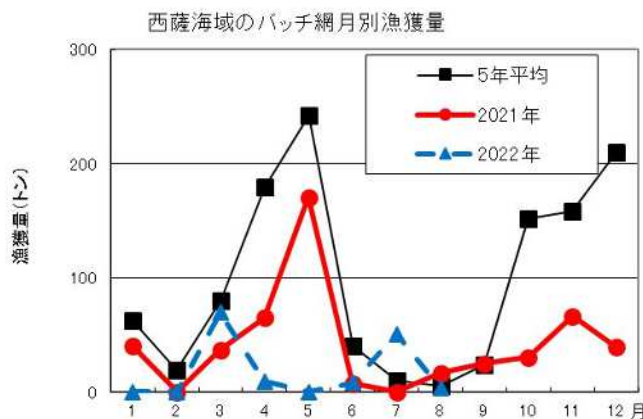


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化 (4漁協計)

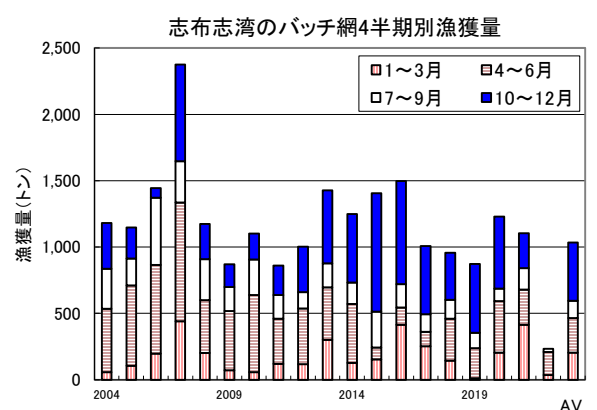
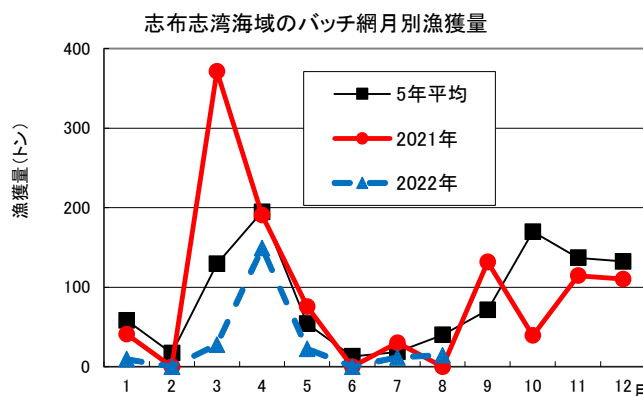


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化 (2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値 (AV)、2022年9月28日までの水揚げ量を使用